

## 平成29年度 事業報告

### 1. 事業の概況

平成29年度の大きなものとして、社会福祉法の改正がありました。当法人の基幹部分の変更となるため平成28年度より注意深く読み解きながら、定款を始めとした書類作成等を行い整備してまいりました。社会福祉法人制度の改革として、主なものとして「経営組織のガバナンスの強化」、「事業運営の透明性の向上」、「財政規律の強化」、「地域における公益的な取組を実施する責務」、「内部留保の明確化と福祉サービスへの再投下」、「行政の関与の在り方」が項目となっていますが、当法人としても、新しい定款や諸規程に基づき法人運営を進めてまいりました。

また、平成30年度の介護保険法改正に向けての、体制整備や運営についても合わせて行ってまいりました。改正の中でも当法人が今まで継続的に行ってきた、地域包括支援センターを中心とした「地域包括ケアシステム」の構築や、平成30年度より前橋市でも本格的に始まる「総合事業(通所型サービスA)」に関する整備を行ってまいりました。目まぐるしく変わる介護保険や、制度改正、世相の流れの中で、試行錯誤しながらではありますが運営を行っています。変えていく部分と、変えなければいけない部分、それに、利用者の為に変えない信念をしっかりと持ち、開設当時の初心を忘れずにこれからも運営を行っていきたいと考えております。

そのようななかにあつて、福祉人材の確保は大きな課題であり、外国人技能実習制度の情報収集や各養成校への訪問など、介護人材確保に向けた取り組みも行っているところですが、人材の確保と定着は喫緊の課題となっております。

特別養護老人ホームでは、前年度より課題であった、空床の削減を行うため、利用者退所後に早期入所ができるように運営を行ってまいりました。その結果、平成29年度新規入所が22名で、退所者も22名と、新規入所者と退所者が同数でした。全体では、平均入所者数は昨年度より1名多い77名で、退所者22名のうち、看取らせていただいた利用者は16名でした。特に、看取りの対応では利用者には安心して最後を迎えることができるように看護を中心に職員全体で取り組みました。世間で取りざたされることが多い介護事故に関しては、本年度、特に力を入れて取り組んだ項目です。具体的に、毎月の「事故会議」「拘束会議」の中で、介護事故報告や、インシデント・アクシデントの事例を集め、検証と原因追及を行い、どの時間帯にどの場所で、どの事故内容が多くあるのか等の統計をとり、業務等の見直しを行いました。また、人員不足に伴う、業務変更や勤務時間帯の見直し・改善も昨年に続き随時行っています。配置や勤務表を考えながら運営を行っていますが、人員不足は大きな課題となっております。平成29年度の新たな試みとして、今まで手書きで記録を残していましたが、介護ソフト(ウインケア)への転換を行い、日誌を始めとした記録や各会議録、委員会資料等をパソコン入力で行うことにより、時間をかけながらも前向きに継続した結果、各書類関係はほぼ全員の職員がパソコン入力での提出、共有化を

行えることで効率化を図ることができました。

法人全体で行っている感染症対策については、栄養課、特養看護、感染症対策委員が中心になり、夏季には、食中毒予防として、ご家族より食べ物の持ち込み自粛の連絡を行い、11月からは本格的にインフルエンザ、嘔吐下痢予防策に努め、1月の下旬からは近隣小学校での学級閉鎖等のインフルエンザ流行の兆しに合わせて、小学生以下の面会を制限させてもらうなど行わせてもらった結果、平成29年度は利用者のインフルエンザの発症者は1名のみで3月末まで拡大することなく終わることができ、ご家族をはじめ入館者のご協力のもと、感染症流行時期を乗り切りました。

また、昨年度はデイサービスで行っていただいた前橋市の関係団体、アーツ前橋の学芸員及び関係者の協力を得て、当年度は特別養護老人ホームで定期的に民族打楽器の演奏や踊りのパフォーマンスを行っていただきました。この事業は、文化庁及び群馬大学共同研究プロジェクトも巻き込んだ文化芸術の社会包摂の事例研究としても取り上げられ、平成31年度まで継続して実施されることになりました。利用者が「音を体感し、目でパフォーマンスを追いかける」そして「自ら音づくりに参加する」、そのような機会となれば良いと考えております。

ショートステイに関しては、定期利用者が入院や、永眠されたこと、自施設や他施設の入所等が続いたことで、空床が増加してしまいました。新規の利用者も間口を広げて、随時受け入れを行っていますが、利用者の確保が今後も課題となっております。引き続き、その課題を明確にし、改善を行えるように運営を行ってまいります。

栄養課では、利用者の方々が、楽しく、安全に、健康的に食事を行っていただくために運営をしております。法人共通で行ったこととしては、月1回の行事食の提供（季節の食材を使用）やイベント食の提供（桜餅、甘茶など）、選択食（5,7,8,10,2月）やそば職人によるそば打ち実演と提供（6月新そばの時期）など、好みに合った食事提供することだけでなく、食べる事を通して四季を感じていただき、選択食においては自ら食事の選択をする楽しみをもっていました。

行事食、選択食については旬の食材の栄養や効能、行事のいわれ、旬のエピソード（インフルエンザ、脱水症の予防など）を食育の一環として施設内放送を行うとともに、旬の食材の栄養、効能についてのポスター掲示を行っております。

各事業の強化項目としては、特養では 毎月の誕生会のケーキ準備・8月かき氷・12月忘年会（利用者と職員合同）を行いました。それとともに栄養ケア・マネジメントによる個別対応（低栄養予防のための食事内容や食事形態の変更、自立摂取継続のための提案、食事介助時の注意事項などの提案と実施・摂食嚥下に関する情報発信や勉強会の開催）を行っております。

デイサービスでは、毎月の調理レクの準備会議と当日の準備、誕生会にケーキ作りを行う際にも同様に準備会議を行い、利用者楽しんでいただけるように提案を行っております。

す。さらに麵献立時には温かい麵の提供も行っております。

ケアハウスでは、誕生会（3か月に1回）のケーキの提供・お茶会での季節菓子の提供（不定期時節により）、12月には忘年会（利用者と職員合同）を行い、他事業と同様に麵献立時の温かい麵の提供を行っております。また、食育（不定期、衛生や栄養）について情報の提供を行ってきました。

法人においては、利用者の方々の安全を守るという立場から、感染症対策の中心になり、会議等を開催、検討、対応策を講じた結果、法人内での感染症のまん延予防を行うことができた実感いたしました。

デイサービスセンターでは、定期的な行事、外出行事、クラブ活動等を通し、利用者の方の生きがいや生活意欲の向上を目指しました。

引き続きクラブ活動では、年間で自分に合ったものや、自分で選択したクラブ（ものづくり、歌等）に参加して、11月に開催する文化祭での発表を目標に、一年間活動していただきました。

文化祭では、一年間の活動を、施設内の談話スペースに展示を行いました。自身のクラブで一年間活動してきたことを見ることでより意識し、過程や思い出の話をするなど楽しんでいただけました。

毎年恒例となっている前橋市主催の七夕祭りへの作品「夏色の幻想曲」の飾り付けを行い、一般・団体の競技部門で前橋市商店街総連合会長賞を受賞いたしました。前橋七夕祭りに行き、利用者の方が実際に展示され、受賞した作品を見ることで、更に生活意欲の向上につながるなど、生きがいにつながる環境を提供できたと思います。

また、希望者のみではありましたが、外部より陶芸の専門家を呼び、利用者に体験をしていただきました。大部分の方が初体験でしたが、専門家の助言や指導のもとコップや皿などの作品を作り持ち返っていただきました。とても、利用者から高評価をいただきました。

そのほか、利用者の利用時の様子、レクや活動、制作風景を届ける一環として、デイ通信を毎月作成し利用者に届けさせていただきました。見て頂いた本人だけでなくご家族等からも、とても好評をいただいております。

ヘルパーステーションでは、地域に根差した在宅サービスとして、利用者に寄り添い、社会的孤立の解消、独居高齢者の社会的環境保持に努めてまいりました

平成29年度は特に自法人の部署との連携を密にとり、まず自法人から「チームケア」を行い、利用者が住み慣れた家で自分らしく生活するための支援を行いました。連携を密にとることによって、利用者の対応の速度と、対応の密度が増し、利用者の問題が起こる前に対応できたように感じました。

受けているサービスは、生活援助が大半ですが、それだけではなく、利用者の体調管理

や、内服状況、栄養改善を含めた食事指導などを支援し、助言を行い、些細なことでも担当のケアマネジャーへの報告も行いました。

また、サービス提供責任者、職員間の連絡を密に行いました。特に朝の申し送り(電子メールや電話等も使用)と、サービス終了の報告をすぐに行うことで、利用者の状況を瞬時に把握対応できることにより、他部署との連携や緊急時のリスクの軽減を行えました。

職員のスキルアップをはかるためには、施設内研修、ミーティング内研修、個別研修を行いました。その結果、幅広い価値観を持って利用者に対応できることにより、職員が、利用者様より信頼できる対応を行い、安心して利用していただくことができたと思います。

新規の事業としては、平成29年5月より前橋市との契約により産後ヘルパー受託サービスを開始し、高齢者介護以外にも社会福祉の貢献として産後の家事、育児に協力者のいない家庭にて育児、家事支援を行い、孤立防止、安心して暮らせる支援体制を提供しています。

今後も与えられたサービス以外にも裾野を広げ、社会福祉を必要とされる方への支援に努めてまいります。

居宅介護新事業所では、今年度も介護保険法を遵守した居宅介護支援事業を行ないました。

居宅介護支援の依頼のあった、利用者やご家族の意向を基に、課題、標準、分析に基づいたアセスメントを行い、公正中立な立場で介護サービス計画を作成しました。

利用者の自立支援に向けて、各種介護保険サービス・福祉サービス・施設サービス・地域インフォーマルサービスの提供にかかわる調整を行いました。介護保険の認定の申請(新規申請・区分変更申請・更新申請)についても、ご本人ご家族の依頼のもとに行いました。特に平成30年度の介護保険制度改正の準備を行い、改正後も特定事業所加算を算定できる事業所として、体制や自覚を持ったサービス提供に心がけました。

居宅介護支援事業の実施(厚生労働省基準である介護支援専門員1名につき35件が基準)においては35件を上限としているが、介護予防支援の利用者を含めると平均稼働率はほぼ満杯で稼働しています。

居宅介護支援では、アセスメント、主治医との連携、居宅サービス計画作成、モニタリング、サービス担当者会議の開催、福祉用具購入、福祉サービスや障害の制度の利用支援や利用料の減免等各種申請の代行、困難事例について包括を交えてケア会議を実施、看護協会と共に困難事例の事例検討会を実施してまいりました。

介護予防支援では、予防給付計画の作成に係る一連の業務、重要事項・契約、アセスメント、プラン作成、モニタリング、評価、給付管理を行いました。総合事業に向けての研修会へも参加を行いました。

このほか、認定調査の実施、受託契約に伴う認定調査の実施(認定調査・面接技法の研鑽として実施)。介護支援専門員資質向上のために、市・地域包括支援センターとの連携・

情報交換会・事例検討会へ参加、各種研修会への参加（施設内研修・認知症研修等）。部署内会議、居宅会議・ケース会議・伝達会議を月各一回の定期開催として行いました。

その他、力を入れて行ったものとしては、

- ・自主点検表による自己評価（A判定） ・事業所アンケートの実施
- ・特定事業集中減算（80%減算）にならないよう努めました。
- ・在宅サービス会議の開催、法人内研修開催、
- ・スキルアップのため、スーパーバイザー研修や愛知県にて行われた介護支援専門員学会へ参加できたことは大変有意義でした。

ケアハウスパノラマでは、朝に力を入れ入居者の健康状態の把握のためバイタル（血圧・体温）の測定を実施し、その後、食堂にてラジオ体操（立位・座位）を実施してまいりました。その後、認知症予防のため15分ほど脳トレを希望者に行っています。

熱中症予防対策として、お茶会を頻回に行ない、予防対策を解りやすくプリントし各利用者に配布しました。インフルエンザやノロウィルス等の感染症の時期には、加湿器設置、うがい・手洗い、手指消毒、マスク着用を、入居者、面会者全員に協力していただいた結果、職員も含め感染者はいませんでした。

事故に関して防止を心掛け、都度声掛けをさせていただいておりましたが、転倒事故が3件発生、1件は居室庭にて転倒、腰椎骨折にて入院され静養・リハビリを終了後、ケアハウスの生活に戻られています。2件目は居室にて転倒され鼻骨骨折。救急搬送し治療後すぐに戻られました。3件目は居室庭の水やり中、滑って転倒、手頸骨を骨折して救急搬送し固定処置後戻られました。この事故をうけ、入居者には事故防止のため歩行に不安がある方は必ず歩行器の使用をお願いし、室内履きはかかどがある靴の利用をして頂くことをお願いいたしました。居室庭での作業は転倒の危険があるため、雨天や地面が濡れている際は特に注意して頂くように懇談会等で伝えるだけではなく、日常的に声掛けを行なっています。

「入居者運営懇談会」では月に1度、入居者全員に参加していただき、食堂にて開催いたしました。悩み・相談・苦情・ご意見など出された事は早急に対処させて頂いております。平成29年度は相談が4件あり、解決済みです。苦情は0件でした。懇談会で言いにくい相談に関しては随時対応させていただきました。

単独での外出が難しい方が多い為、職員が対応して、以下の催し物を行いました。

- ・買い物ツアー（月3回） ・外食ツアー（月2） ・お茶会（月1～2回）
- ・カラオケ教室（毎週日曜日） ・花見（桜・バラ園）を行いました。

このほか、レクレーションの一環としてケアハウスの庭にてスイカ（大玉・小玉）の栽培を行い、5月に苗の植え付けを入居者と一緒に行い、8月に入居者と一緒収穫しお茶会にて召し上がって頂きました。入居者の希望により平成30年度はサツマイモの栽培予定です。

また、引きこもり防止のため、なるべく入居者全員が参加出来て安心して楽しく暮らせるようにボランティアの受け入れを積極的に行い、サックス・フルート・カラオケ・えいめいデイサービスとの合同茶話会、特養やデイサービスのボランティアの演奏会などにも参加していただきました。

地域包括支援センターでは、高齢者が住み慣れた地域でその人らしい尊厳ある生活を継続するために、引き続き「地域包括ケアシステムの構築」に向けた取り組みを行ってきました。

平成29年度からは新しい総合事業への取り組みが開始となり、新たな業務として基本チェックリストを実施し、事業対象者に該当する方に対し、利用者の状況や希望等も踏まえて、自立支援に向けたケアプランを作成してサービス利用につなげました（別紙1参照）。社会福祉法人清水の会では、市からの委託を受けて通所型サービスを実施していることから、他包括に比べ事業対象者としてサービス利用をする高齢者が多く、年度当初はその対応にかなりの時間がとられました。新しい制度に対するケアマネジャーの理解を深めるため、3包括合同で勉強会も開催しました。

また、生活支援体制整備事業も始まり、前橋市社会福祉協議会との連携で、地区社会福祉協議会の方を中心に企画会議・勉強会を行いました。第二層協議体設置に向け、一般住民の方にもご理解ご協力を頂くために、一般住民向け勉強会も年度末に開催し、参加者からは「良く理解できた。」等と感想を頂きました。

医療介護の連携体制として、医師会・歯科医師会・薬剤師会・訪問看護等の地区代表の方を招き、年3回の会議を開催しました。

地域のネットワークづくりや地域課題の発掘の為、例年通りに自治会長会議・民生委員定例会・保健推進員定例会・永明地区老人クラブ連合会会議等への参加をしてきました。ひとり暮らし高齢者・地域で心配な高齢者に対しては、民生委員と情報共有を行い、必要に応じて訪問し状況把握を行ってきました。困難事例に対する個別ケース会議等も適宜行い、高齢者が地域で生活するための体制整備を行いました。

平成30年度は、今年度行ってきた活動をより明確化し、体制を整備していくことが求められます。前橋市・社会福祉協議会はもちろん、近隣の地域包括支援センターとも連携を取り、今後の運営に力を入れていきたいと思えます。

受託事業は、「前橋市はつらつカフェ事業」、「通所型サービスAピンシヤン えいめい」を前橋市より受託し、地域支援事業として、「介護予防サポーターオレンジの会」を行ってまいりました。

前年度まで、前橋市が行っていた「いきいき長生き教室」事業が終了し、当年度より新しい事業として「前橋市はつらつカフェ事業」が創設されました。以前とは、補助金額が、大幅の減額となり、職員配置に関しても厳しく、市より保健推進員の斡旋もなくなりましたが、今まで10年間継続してきたこと、住民や自治会からの強い要望もあったことで行い

ました。開催にあたって、自治会との調整を行い、従事していただける方を 3 名選出していただき運営させていただきました。名称も「いきいき上大島」とし、自治会が色濃く出たものにさせていただきました。運営に関しては、利用者の年齢も高くなり、介護保険利用者も参加しており、転倒などの危険もありますが、利用者同士の憩いの場、福祉にかかわる場、話せる場所、相談できる場所、楽しみな場としての役割が担えるように、少ない職員配置ですが、事故が起こらないように支援をさせていただきました。

介護予防総合事業も前橋市で本格的に開始され、今まで行っていた総合事業モデル事業は終了となり、新たな体制、人員配置、料金等の変更のもと、新規事業として受託させていただきました。「通所型サービスA ピンシャンえいめい」という名称で運営を行い、水曜午後、木曜午前、午後、金曜午後の週 4 回開催いたしました。運営に関して、事業の枠組み等は変わりましたが、「利用者が、継続して住み慣れた地域で長く生活できるように、身体と心に働きかけるサービス提供」という基本姿勢のもとに、体操や、レク等で、身体機能の維持向上と、笑顔で家に帰るように支援してまいりました。実績としては、年間 198 回、延べ利用者 2,385 名となりました。新規の事業のため単純に去年度と比べることはできませんが、去年度と比べ開催数の増加や、利用人数 400 名増加などがあります。現在、利用されている利用者からのご紹介で、新規の方の利用につながりましたが、それ以外はあまりありませんでした。通所型サービスAの性質上、包括支援センターより紹介が必要ですので、他の地区の包括にサービスのあいさつやご紹介に伺いましたが、新規の獲得は困難でした。「通所型サービスA ピンシャンえいめい」は開始されましたが、平成 30 年には終了となります。平成 30 年度より介護保険制度内での指定事業所となり、枠組み、体制、人員配置、料金等、変更になり再度、新規事業の届け出、契約を行い、名称も「介護予防 えいめい」となります。新規事業となりますが、基本姿勢は、変わらずに介護予防に対する経験をもとに地域の介護予防のために邁進していきたいと考えております。

「介護予防サポーターオレンジの会」は、前年度より、永明地区の介護予防サポーターが集まってピンシャン元気体操を行い、各自治会でサロン等を行っている方々の、情報交換や相談できる場所として開催してまいりました。その中で、サロンへの支援として希望があった場所には、職員を派遣し、運動や介護予防の説明等をさせていただきました。清水の会が地域の為に行っている独自の地域支援なので、今後も継続していきたいと考えております。

## 2. 職員及び研修の状況

介護職員を中心に人材不足が課題となっておりますが、昨年に引き続き「介護従事者の離職防止、介護従事者の処遇改善に資するよう、ひいては利用者が質の高いサービスを安心して安定的に利用することができるようにする」ことを目的とした介護職員の処遇改善加算の算定により、介護職員のみならず全職員の処遇改善を図ってまいりました。

また、キャリアパスに基づく職員個々の能力の向上と資格取得の推進により、当年度に

においては「社会福祉主事」1名（特養）の通信教育課程の履修を推進、現在も履修中です。また、「介護支援専門員」1名（特養）、「介護福祉士」2名（特養）が資格取得、法人としての総合力のアップを図ってまいりました。

職員の入退職は依然として多い状況もあり、定着率の向上と介護職の確保は重要な課題ともなっております。

給与などの処遇面以外での問題点の解決、職員が勤労意欲を持つことができる職場環境の整備は最重要課題と考えております。

また、施設内研修は各事業所の担当制とし、年間計画に基づき原則月1回の開催を目指し、知識と技術の習得の場として力を入れてまいりました。

実施内容は別紙2のとおりです。

### 3. 施設整備等の状況

施設整備面では、計画的なものとしてエレベーターの部品交換、冷温水発生機冷却塔の清掃及び配管の薬品洗浄、ボイラーの部品交換、浄化槽ポンプ類の交換などを行ってまいりました。現状、修繕で対応しておりますが、開設以来17年を経過していることから、今後、全面的な入れ替えも検討する必要があり、設備の刷新も課題のひとつと言えます。このほかエアコン故障による修理、非常照明等消防設備の修理、水回りの修理等前年に増して修繕が多かった状況にありました。

固定資産の取得では、車両2台（うち1台はリフト車）を購入いたしました。

### 4. 入所者・利用者の状況

事業面における入所者・利用者の状況については、別紙3の「平成29年度 施設別年間利用者状況」のとおり、特別養護老人ホームの一日当たり平均利用者数は76.24名（定員80名、前年74.98名）という結果で、前年比101.7%、稼働率95.3%（前年93.7%）と前年より上回りました。死亡退所・入院等による空床は延べ1,374日（前年1,833日）となりました。

また、ショートステイは平均6.07名（定員10名 前年6.81名、前年比89.1%）と前年を下回るとともに、過去にない稼働率の低下に直面しております。

通所型サービスAは、先にも記したとおり単純には前年との比較はできないところですが、当年週4回の開催で延べ196回、利用者総数2,385名、一日当たり平均利用者数12.17名という結果でした。

デイサービスは一日当たり利用者数が24.25名（定員40名、前年25.92名、前年比93.6%）と減少いたしました。

また、ヘルパーステーションは平均12.67名（前年11.91名、前年比106.4%）と増加いたしました。

居宅介護支援事業所は7.16名（前年7.04名、前年比101.7%）と現人員配



置では最大限を確保するとともに、地域包括支援センターは16.06名（前年12.72名、前年比126.3%）と総合事業の事業対象者が加わったことにより大幅な伸びを確保、ケアハウスは18.19名（定員20名、前年18名、前年比101.1%）となりました。

## 5. 評議員会・理事会の開催

評議員会・理事会の開催は下記のとおりです。

第1回理事会 平成29年5月29日（月）

平成28年度事業報告・決算報告（監査報告）、経理規程及び経理規程細則の一部改正、運営規程の一部改正の専決、評議員会への議案上程内容及び開催日時

第1回定時評議員会 平成29年6月13日（火）

平成28年度事業報告・決算報告（監査報告）、経理規程及び経理規程細則の一部改正、社会福祉充実残額について、役員（理事・監事）の選任、運営規程の一部改正の専決

第2回理事会 平成29年6月13日（火）評議員会終了後

代表理事（理事長）・業務執行理事の選任及び施設長の選任について、社会福祉充実残額について

第3回理事会 平成29年9月26日（火）

平成29年度事業の進捗状況、資金収支の状況・予算の進捗状況、就業規則及び育児・介護休業等に関する規則の一部改正、前橋市地域包括支援センター業務受託申請に係る専決

第4回理事会 平成29年12月4日（月）

平成29年度事業の進捗状況、資金収支の状況及び補正予算（案）、ケアハウス会計前期末支払資金残高の取崩及び短期入所生活介護会計への拠点区分間繰入、ケアハウス会計施設整備等積立金の一部取崩、介護予防短期入所生活介護並びに介護予防・日常生活支援総合事業みなし指定事業所における通所介護及び訪問介護の更新認可申請の専決、運営規程の一部改正の専決、第2回評議員会の開催日及び議案上程内容

第2回評議員会 平成29年12月18日（月）

平成29年度資金収支の状況及び補正予算（案）、ケアハウス会計前期末支払資金残高の取崩及び短期入所生活介護会計への拠点区分間繰入、ケアハウス会計施設整備等積立金の一部取崩、就業規則及び育児・介護休業等に関する規則の一部改正、前橋市地域包

括支援センター業務受託申請に係る専決、介護予防短期入所生活介護並びに介護予防・日常生活支援総合事業みなし指定事業所における通所介護及び訪問介護の更新認可申請の専決、運営規程の一部改正の専決

第5回理事会 平成30年3月12日（月）

平成29年度事業の進捗状況・資金収支の状況、平成29年度補正予算（再補正案）、平成30年度事業計画（案）、予算（案）、通所型サービスAの指定申請に伴う申請書類の提出及び運営規程の専決、運営規程の一部改正の専決、給与規程の一部改正の専決、第3回評議員会の開催日及び議案上程内容

第3回評議員会 平成30年3月27日（火）

平成29年度資金収支の状況及び補正予算（再補正案）、平成30年度事業計画（案）、予算（案）、通所型サービスAの指定申請に伴う申請書類及び運営規程の専決、運営規程の一部改正の専決、給与規程の一部改正の専決

## 6. 経営の概況

経営の概況については、法人全体で介護保険事業収入は前年に比べ4,458千円、前年比100.9%と僅かではありますが上回りました。特養の稼働率の向上による介護保険収入の増はありましたが、短期入所生活介護、通所介護は大幅に前年を下回るなど安定的に利用者の確保ができなかった事業所においては苦戦を強いられました。訪問介護は少ない人員配置のもと当年度は大きく収入を伸ばすことができましたが、事業所としての収支は依然として厳しい状況下にあります。居宅介護支援事業所、地域包括支援センターは安定した伸びにより法人全体の収支改善に寄与しているところです。また、当期はケアハウスにおいて、市補助金の一部（民改費）について、資金収支の状況が基準を超えたことにより停止となったこと、この解消のため拠点区分間の繰入を行ったことから、ケアハウス会計は大幅なマイナス計上となりました。

支出面では、人件費については前年比98.2%と前年を下回りましたが、これは介護職員の減少等が要因であり、処遇改善に伴う支出の増加があるなかで、今後、人員補充が進んだ段階では、人件費負担が経営に大きく影響することは従前どおりです。

事業費では、前年比103.2%と給食費、水道光熱費、燃料費が大きく上回ったことが要因です。

事務費では、前年比103.9%となり、業務委託費の増と修繕費の大幅な増によるものです。

以上の結果、法人全体での当期資金収支差額は、16,509千円と黒字は確保いたしましたが、ケアハウス会計の施設整備等積立金6,000千円の取崩も反映されていることから実質はほぼ前年並みという結果になりました。

前橋市地域包括支援センター永明

平成27年度～平成29年度分の実施状況について次のとおり報告します。

項 目		H27年度	H28年度	H29年度	
業務実施日数		241日	244日	244件	
従事職員数		5人	67人	88人	
1 利用者 基本情報 作成	基本情報作成数合計	115件	63件	141件	
	内 訳	介護予防(給付対象者)	98件	57件	26件
		介護予防マネジメント対象者	0件	0件	103件
		相談	14件	2件	8件
		実態把握	3件	4件	4件
		その他	0件	0件	0件
2 相談 件数	相談件数合計	507件	832件	615件	
	相 談 方 法	電話	319件	451件	372件
		来所	52件	160件	81件
		訪問	127件	199件	147件
		その他	9件	22件	15件
3 権利 擁護 業務	権 利 擁 護	成年後見	6件	6件	1件
		措置の支援	0件	2件	0件
		地域福祉権利擁護	0件	0件	0件
	高齢者虐待	9件	12件	5件	
	困難事例	13件	55件	19件	
	消費者被害	0件	1件	1件	

## 業務実施報告

前橋市地域包括支援センター永明

項 目		H27年度	H28年度	H29年度	
（介護予防支援）	予防プラン作成数(報酬有り)	2954件	3083件	2402件	
	内訳	うち(包括作成)	2024件	2076件	1468件
		包括作成比率	68%	67%	61%
		うち(初回加算)	120件	97件	40件
		初回加算比率	4.1%	3.1%	1.7%
ケアマネジメント	総合事業プラン等作成数	0件	0件	1498件	
	内訳	A(原則的なケアマネジメント)数	0件	0件	805件
		B(簡略化したケアマネジメント)数	0件	0件	683件
		C(初回のみケアマネジメント)数	0件	0件	10件
	内訳	うち(包括作成)	0件	0件	1277
直営比率		0件	0件	85.2%	
新約規数	介護予防プラン	132件	115件	95件	
	内訳	直営分	77件	63件	50件
		委託分	55件	52件	45件
	介護予防ケアマネジメントプラン	0件	0件	100件	
	内訳	直営分	0件	0件	100件
委託分		0件	0件	0件	
給付管理	給付管理件数	2983件	3114件	3955件	
	内訳	介護予防支援	2983件	3114件	2426件
		介護予防ケアマネジメント	0件	0件	1529件
請求額	請求額	¥13,473,936	¥13,989,012	¥17,204,422	
	内訳	介護予防支援	¥13,473,936	¥13,989,012	¥10,805,456
		介護予防ケアマネジメント	¥0	¥0	¥6,398,966

## 平成29年度 施設別年間利用者状況

施設名	性別	4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月		3月		合計		1日あたり利用者数 平均介護度	前年度
		人数	日数	人数	日数	人数	日数	人数	日数	人数	日数	人数	日数	人数	日数	人数	日数	人数	日数	人数	日数	人数	日数	人数	日数	人数	日数		
特養 (定員80)	男女	16 62	442 1,795	13 60	403 1,837	13 60	390 1,778	13 64	403 1,927	13 67	394 2,007	12 68	360 2,011	13 67	391 2,074	13 66	376 1,974	11 67	341 2,020	11 67	341 2,049	11 68	293 1,863	10 68	310 2,047	149 784	4,444 23,382	<b>76.24</b>	<b>74.98</b>
	計	<b>78</b>	<b>2,237</b>	<b>73</b>	<b>2,240</b>	<b>73</b>	<b>2,168</b>	<b>77</b>	<b>2,330</b>	<b>80</b>	<b>2,401</b>	<b>80</b>	<b>2,371</b>	<b>80</b>	<b>2,465</b>	<b>79</b>	<b>2,350</b>	<b>78</b>	<b>2,361</b>	<b>78</b>	<b>2,390</b>	<b>79</b>	<b>2,156</b>	<b>78</b>	<b>2,357</b>	<b>933</b>	<b>27,826</b>	4.11	4.12
ショート (定員10)	男女	1 21	2 157	2 21	7 176	5 19	34 171	7 20	75 134	6 20	54 142	3 17	43 115	6 21	41 158	2 22	12 185	5 24	27 175	4 18	29 125	3 17	18 147	3 18	23 167	47 238	365 1,852	<b>6.07</b> (0.04)	<b>6.81</b> (0.16)
	計	<b>22</b> (1)	<b>159</b> (7)	<b>23</b> (0)	<b>183</b> (0)	<b>24</b> (0)	<b>205</b> (0)	<b>27</b> (2)	<b>209</b> (7)	<b>26</b> (0)	<b>196</b> (0)	<b>20</b> (0)	<b>158</b> (0)	<b>27</b> (0)	<b>199</b> (0)	<b>24</b> (0)	<b>197</b> (0)	<b>29</b> (0)	<b>202</b> (0)	<b>22</b> (0)	<b>154</b> (0)	<b>20</b> (0)	<b>165</b> (0)	<b>21</b> (0)	<b>190</b> (0)	<b>285</b> (3)	<b>2,217</b> (14)	2.59 0.6%要支援	2.74 2.4%要支援
デイ (定員40)	男女	12 57	91 532	14 56	104 573	13 58	98 561	14 56	97 566	13 54	102 569	14 53	96 528	14 58	92 538	15 60	88 545	17 60	105 503	15 56	93 479	13 55	80 446	14 54	99 509	168 677	1,145 6,349	<b>24.25</b> (5.50)	<b>25.92</b> (6.07)
	計	<b>69</b> (20)	<b>623</b> (134)	<b>70</b> (19)	<b>677</b> (145)	<b>71</b> (21)	<b>659</b> (148)	<b>70</b> (21)	<b>663</b> (146)	<b>67</b> (20)	<b>671</b> (162)	<b>67</b> (22)	<b>624</b> (147)	<b>72</b> (19)	<b>630</b> (140)	<b>75</b> (21)	<b>633</b> (144)	<b>77</b> (22)	<b>608</b> (142)	<b>71</b> (21)	<b>572</b> (134)	<b>68</b> (19)	<b>526</b> (121)	<b>68</b> (19)	<b>608</b> (136)	<b>845</b> (244)	<b>7,494</b> (1,699)	1.88 22.7%要支援他	2.03 23.4%要支援
ピンシャン	男女	4 56	13 187	4 54	11 157	4 55	18 215	4 53	15 185	4 55	12 195	4 54	19 179	4 51	15 175	3 54	8 197	3 53	9 192	3 54	8 175	2 54	6 179	2 52	8 207	41 645	142 2,243	<b>12.17</b>	<b>19.05</b>
	計	<b>60</b>	<b>200</b>	<b>58</b>	<b>168</b>	<b>59</b>	<b>233</b>	<b>57</b>	<b>200</b>	<b>59</b>	<b>207</b>	<b>58</b>	<b>198</b>	<b>55</b>	<b>190</b>	<b>57</b>	<b>205</b>	<b>56</b>	<b>201</b>	<b>57</b>	<b>183</b>	<b>56</b>	<b>185</b>	<b>54</b>	<b>215</b>	<b>686</b>	<b>2,385</b>	延べ19 6回開催	延べ15 0回開催
ヘルパー	男女	14 33	132 172	13 33	141 196	13 35	124 211	11 36	115 217	12 34	123 212	12 38	118 223	12 35	124 208	13 35	127 204	14 37	129 197	14 34	121 172	15 35	120 192	15 34	131 206	158 419	1,505 2,410	<b>12.67</b> (4.91)	<b>11.91</b> (4.78)
	計	<b>47</b> (24)	<b>304</b> (112)	<b>46</b> (25)	<b>337</b> (129)	<b>48</b> (24)	<b>335</b> (133)	<b>47</b> (25)	<b>332</b> (133)	<b>46</b> (24)	<b>335</b> (124)	<b>50</b> (26)	<b>341</b> (136)	<b>47</b> (25)	<b>332</b> (129)	<b>48</b> (24)	<b>331</b> (121)	<b>51</b> (26)	<b>326</b> (135)	<b>48</b> (24)	<b>293</b> (118)	<b>50</b> (25)	<b>312</b> (122)	<b>49</b> (25)	<b>337</b> (126)	<b>577</b> (297)	<b>3,915</b> (1,518)	1.44 38.8%要支援他	1.90 40.1%要支援
居宅	男女	50 98	50 98	48 97	48 97	51 96	51 96	50 97	50 97	49 98	49 98	48 96	48 96	47 100	47 100	43 99	43 99	44 104	44 104	45 97	45 97	45 98	45 98	47 100	47 100	567 1,180	567 1,180	<b>7.16</b>	<b>7.04</b>
	計	<b>148</b>	<b>148</b>	<b>145</b>	<b>145</b>	<b>147</b>	<b>147</b>	<b>147</b>	<b>147</b>	<b>147</b>	<b>147</b>	<b>144</b>	<b>144</b>	<b>147</b>	<b>147</b>	<b>142</b>	<b>142</b>	<b>148</b>	<b>148</b>	<b>142</b>	<b>142</b>	<b>143</b>	<b>143</b>	<b>147</b>	<b>147</b>	<b>1,747</b>	<b>1,747</b>	2.05 介護 度3以上の割 合 26.6%	1.96 介護 度3以上の割 合 23.1%
地域包括 (介護予防) (総合事業)	男女	80 252	80 252	72 252	72 252	70 251	70 251	74 246	74 246	76 247	76 247	74 251	74 251	75 247	75 247	75 255	75 255	75 257	75 257	76 254	76 254	76 255	76 255	77 252	77 252	900 3,019	900 3,019	<b>16.06</b> (5.10)	<b>12.75</b>
	計	<b>332</b> (76)	<b>332</b> (76)	<b>324</b> (79)	<b>324</b> (79)	<b>321</b> (90)	<b>321</b> (90)	<b>320</b> (94)	<b>320</b> (94)	<b>323</b> (101)	<b>323</b> (101)	<b>325</b> (101)	<b>325</b> (101)	<b>322</b> (102)	<b>322</b> (102)	<b>330</b> (110)	<b>330</b> (110)	<b>332</b> (120)	<b>332</b> (120)	<b>330</b> (123)	<b>330</b> (123)	<b>331</b> (126)	<b>331</b> (126)	<b>329</b> (122)	<b>329</b> (122)	<b>3,919</b> (1,244)	<b>3,919</b> (1,244)	要支援1.51 31.7%事業対象者	要支援1.46
ケアハウス (定員20)	男女	8 10	240 300	8 11	248 341	8 10	240 300	8 10	248 310	8 10	248 310	8 10	240 300	8 10	248 310	8 10	240 300	8 10	248 310	8 10	248 310	8 11	224 308	8 11	248 320	96 123	2,920 3,719	<b>18.19</b>	<b>18.00</b>
	計	<b>18</b>	<b>540</b>	<b>19</b>	<b>589</b>	<b>18</b>	<b>540</b>	<b>18</b>	<b>558</b>	<b>18</b>	<b>558</b>	<b>18</b>	<b>540</b>	<b>18</b>	<b>558</b>	<b>18</b>	<b>558</b>	<b>18</b>	<b>558</b>	<b>18</b>	<b>558</b>	<b>19</b>	<b>532</b>	<b>19</b>	<b>568</b>	<b>219</b>	<b>6,639</b>		

※ ( )内数字は、合計数(上段)の内介護予防・総合事業利用者数

※包括( )内数字は、合計数(上段)の内総合事業対象者